

ひらか 連携ニュース

在宅医療の推進に伴い、多職種連携が促進され、各職種の専門性の発揮とチームとしての支援体制が求められています。医療依存度の高い患者さんや独居・高齢世帯の患者さんが、安定した病状で在宅療養を継続するには服薬のアドヒアランスが非常に重要です。今回は、薬局薬剤師の訪問サービスについてご紹介いたします。

安定した病状で安心して暮らすために ～薬局薬剤師の訪問サービスを活用しましょう～

医療保険や介護保険には、**通院困難な患者さん**に対して、**医師の指示**に基づき、**薬剤師が自宅を訪問**し、薬の配達や服薬指導を受けられるサービスがあります。定期的な服薬管理の他、症状の悪化時の緊急訪問も可能です。

薬局薬剤師による訪問サービスの内容

- ・ 薬を配達し、通院に介助が必要な患者さんや付き添うご家族の負担を軽減します。
- ・ 薬の効果や副作用の有無を確認し、医師と薬の種類や用量について相談します。
- ・ 患者さんの服用状態に合わせて、飲みやすい形状の薬を提案します。
- ・ 飲み忘れがないように薬の管理方法を工夫したり、残薬を整理します。
- ・ 患者さんの生活スタイルに合わせた服用法や代替薬品を提案します。
- ・ 医療用麻薬を使用している患者さんに対して、症状に応じた投与方法や投与量を医師と相談し、速やかに対応します。



退院後の服薬管理

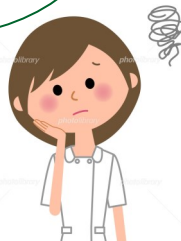
こんなことで困っていませんか？

入院前より認知機能もADLも低下したな。入院中は看護師が服薬管理していたけど、退院後は老々世帯。確実に服用できるかな

入院時の持参薬、ずいぶん余ってたな。心不全の悪化は、薬の飲み忘れが原因。退院後は、確実に服用させたい。

かかりつけ医の処方と退院時の処方、併せると種類も量もずいぶん多いな。副作用が心配だな。

嚥下機能が低下してきている。錠剤の服用がこれから難しくなるかもしれないな。



連携室では、

- ♡ HPNで在宅療養をされる方
- ♡ 医療用麻薬を使用されている方 へ訪問サービスの利用を勧めています。

メリット！

- ・ 重たい輸液用製剤やセット交換用医療材料の定期配達が可能です。
- ・ がん性疼痛のある患者さんの痛みの増強に対して、緊急訪問による速やかな対応が可能です。

料金(点数)

- ・ 医療保険の場合…650点/回
- ・ 介護保険の場合…507点/回
- ※ 施設入所者の場合は、上記と異なります。
- ※ 緊急訪問(医療保険) 500点/回

利用できる回数

- ・ 月4回(6日以上あけて)
- ※ がん末期、HPNの方は週2回かつ月8回 可